

ほくりく「食」と「農」の消費者ネット意見交換会(石川県)の概要

日時：令和5年12月18日（月曜日）

場所：北陸農政局1階第三会議室

令和5年12月18日、「食料安全保障・食料自給率の現状と課題」を本年度のテーマとして、石川県内の消費者団体7団体等から計12名の方々を招いて意見交換会を行いました。

以下、その概要についてご紹介します。



【開会挨拶する河合局次長】

開会にあたり、北陸農政局河合局次長から、「本日の意見交換会の目的は3つあります。1つは食料安全保障について、国の政策の最新情報を知っていただくこと、2つは食料安全保障に対して消費者がとるべき行動のヒントを持ち帰ってほしいこと、3つは皆様同士が絆を深めていただき、行政も一緒に行動していくスタート地点にしたいと思っています。活発な意見交換となりますようお願いします。」と挨拶しました。

先ず、各団体の方々に日頃の活動を発表いただきました。食品ロス削減、フードドライブ、プラごみ削減、ブログによる情報発信、適格消費者団体としての差し止め請求訴訟、食品表示調査、高齢者のフレイル予防の啓発、農業体験教室、伝統料理継承、商品テスト、経済・環境・食の問題等の勉強会、会員同士の交流・研修、産地交流等の取組について情報交換し、交流を深めていただきました。

次に、大臣官房政策課食料安全保障室から「我が国の食料安全保障をめぐる情勢について」をテーマに、我が国の食料需給、世界人口の増加、気候変動、輸出規制など食料需給を不安定化させる要因の多様化と影響の深刻化、不測時に備えた取組及び食料・農業・農村基本法の検証・見直し等について説明を行い、その後意見交換を行いました。



【説明する大臣官房政策課
食料安全保障室光廣課長補佐】

出席された皆様から、多くの意見等をいただきました。主な内容は以下のとおりです。



【意見交換会の様子】

○みどりの食料システム戦略関連

- ・スマート農業について、現状どれくらい進んでいますか。有機農業とどう結びつきますか。
- ・生産者を増やすには、どのような方向を考えていますか。
- ・消費者団体の取組として有機農産物の消費をすすめることは難しいです。
- ・食農教育の取組として、なるべく農薬を使わない方がいいという思いはあります。
- ・単協の取組として、ダンボールコンポストを行っています。家庭から出る残渣を有機肥料にして畑にまくと良いものが作れますので、今から広めていけたらいいと考えています。

- ・有機＝高価と感じていますし、スーパーの店頭にも並んでいません。
- ・有機農産物がなぜ高いのか。高い理由を消費者が理解できないと広がらないと思います。食べておいしいよという感覚になっていないと思います。

○その他

- ・「地産地消」ばかりでなく、おいしいものをバランスよく食べることが大事だと思います。



【意見交換会の様子】



【意見交換会の様子】

- ・農業に若い人が関心をもってくれるように、取り組みやすい方法や支援が必要だと思います。
- ・海外の留学生を長期に受け入れています。皆ごはん食が大好きで、今後も継続していきたいです。
- ・輸出を強化することは理解できますが、国際的な対応を考えた場合、小規模な農家に対する支援が必要ではないかと思います。

農林水産省から

・スマート農業については、まずは技術の部分について、自動のトラクターや田植え機など、様々なスマート農業技術が開発されており、ある程度揃ってきた状況です。その技術の普及に向け、令和元年度から農林水産省で「スマート農業実証プロジェクト」を実施し、スマート農業技術を実際に生産現場に導入し、技術実証を行うとともに、課題をフィードバックしてより良いかたちになっている段階です。有機農業との関係については、例えば、農薬をドローンを使って撒いた場合、ピンポイントで撒くことができますので、全体的な使用料を抑えることに繋がります。



【閉会挨拶する森下消費・安全部長】

・有機農産物が高いのは、農薬や肥料を減らした分人

の手がかかることや流通量が少ない状況だからです。流

通量を増やしていくために、みどりの食料システム戦略の中で面積を増やしていく取り組みを進めているところです。

・国全体の人口が減っていく中で、生産者を増やしていく方向としては、スマート農業で効率化をはかり一人当たりの管理する農地を増やしていくということと、半農半Xの方や農業に関心を持っている方等多様な担い手を増やしていくことを考えています。

・輸出に当たっては、国際的な潮流としていろんな認証があってそれへの対応をしていく必要がありますと思っています。認証取得に対する支援や小規模の農家でも輸出団体に相談すればチャレンジできるよう、サポート体制は整備しているところです。

最後に、北陸農政局森下消費・安全部長から、「食料安全保障については、なかなか身近なこととして気付きにくいことと思います。今、勉強するとてもいい機会でもありますので、資料等活用いただき、各団体会員の皆様に広めていただければと思います。この意見交換会をきっかけに皆様同士の輪が広がっていくこと期待し、北陸農政局へも様々な情報を共有いただければと思っています。」と挨拶し、意見交換会を閉会としました。

意見交換会出席者

【消費者団体】（7団体、11名）

金沢市校下婦人会連絡協議会、石川県生活学校連絡会、JA 石川県女性組織協議会、NPO 法人消費者支援ネットワークいしかわ、石川県生活協同組合連合会、石川県生活研究グループ協議会、（公社）石川県栄養士会

【石川県】

農林水産部ブランド戦略課

【講師】

農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室

【北陸農政局】

北陸農政局次長

北陸農政局消費・安全部長

北陸農政局石川県拠点地方参事官

北陸農政局消費・安全部消費生活課長 ほか